

ヤマグワ

Morus bombycis

クワ科

名前の由来

山野に自生する桑の意か? 「クワ(桑)」は「食う葉」、「蚕葉(こは)」、「飼葉(くは)」からと諸説がある。
漢字名：山桑

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ



ヤマグワ(上,右)



形態的特徴

樹高5~12m。葉は卵形~広卵形、長さ6~20cm、不整の鋸歯縁ときに3~5中裂、互生。雌雄異株まれに同株。花は、雄花序は淡褐色、雌花序は緑白色で若枝の下部につく、5月開花。果実は楕円形で長さ5~14mm、7月下旬~8月黒紫色に熟す。



ヤマグワの雄花



ヤマグワの雌花



ヤマグワの実。

鳥や虫だけでなく、人間が食べてもおいしい



類似種との見分け方：葉に切れ込みのないものから、3~5つに切れ込むものまで変異が多く、1本の木の中でもいろいろな形が見られる。葉に触ってみると、「ワシヤッ」という独特の触感があるのでこれを覚えるとよい。



ヤマグワの葉。切れ込みがないものからたくさんあるもの(次ページ参照)まで様々。触った感触が独特



ヤマグワの樹形



ヤマグワの樹皮。不規則に浅く裂ける



ヤマグワの冬芽



ヤマグワの枝先の葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

生育環境・分布

山地や平地に生える。**分布**：国外分布は、南千島、朝鮮、中国、樺太、インドシナ半島、インド、ヒマラヤ。国内分

布は、北海道、本州、四国、九州、琉球。北海道では全域分布か。十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

5月開花。果実は楕円形で長さ5～14mm、7月下旬～8月黒紫色に熟す。鳥に実を食べられることで種子分散をおこ

なっているものと考えられる。寿命は不明。帯広市拓成に推定樹齢50年のヤマグワがある。

他生物との関わり

7月下旬～8月に果実が熟し、多くの鳥が食べる。鳥に実を食べられることで種子分散をおこなっているものと考えられる。

また、カメムシ、はさみ虫、コガネムシ、蛾等、ヤマグワには多くの昆虫類が集まる。

コムスジ、ツバメシジミ、トラフシジミ、ルリシジミの幼虫の食樹となる。



左はコムスジ、右はツバメシジミ。
どちらも幼虫時ヤマグワを食樹とする

(撮影-吉原利之、標本-吉原利之氏所蔵)

植栽関係

土壌：壤土、適潤性、通気性は中程度、pHは弱酸性～中性、堅密度は堅くても耐える。光は中間性木。樹齢30年で、直径18cm、樹高7m、根系の最大深度190cm、根の広がり半

径1.5m。根の支持力は強い。移植は中～容易。挿し枝での活着率は低いという。

興味深い話

■公園・街路樹。材は光沢が美しく、建設材の他、お椀の材料。実は甘くておいしく、生食の他果実酒にも。

■樹皮は繊維質で、布、ロープ、和紙などの材料になる。内皮は焼酎に漬けて桑酒を作り、樹皮を煎じて布を黄色に染める桑染めの原料ともできる。

■根茎の内側を桑白皮と呼び、補血、咳止め、高血圧症に用いる。熟果を干した物は桑椹と呼び、不眠症や冷え性に効く。その他、桑の椀でみそ汁を飲めば中気にかからない、桑の杯で酒を飲めば悪酔いしないとも言われ、魔除けとして床柱にも用いられる。

■木の摩擦で火起こしをする際の棒（ヒキリギネ）にも向くという。(http://www.pref.hokkaido.jp/srinmu/sr-dmmkj/mori/html-files/programs/prghiokosi.htm)

■十勝地方のアイヌ語では「テシマニ」という。

■アイヌ語名のテシマニは「カンジキ・木」の意味で、桑

の木でカンジキをつくると丈夫であるので、このような名となったという。



(左上)いわゆるヤマグワらしい葉。

(右)ヤマグワの葉には変異が多くここまで分かれたものも

配慮事項

樹齢30年で、直径18cm、樹高7m、根系の最大深度190cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植は中～容易。

挿し枝での活着率は低い。

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「新装版 樹木根系図説」菊住昇 誠文堂新光社 1987
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「日本の野生植物 木本Ⅱ」佐竹義輔・原寛・亘理俊治・富成忠夫 編 平凡社 1989
「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一 (未発表)
緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11～p:13 1975

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類
ワシ・タカ